

# ( 公開学習 ) 第 4 学年 2 組 音楽科学習指導案

授業者 梶田 祐子  
小学校 音楽室

## 1 題材 サンバでときめきアンサンブル

### 2 授業構成

#### ( 1 ) 教師と教材

本題材は、学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

A 表現 ( 2 ) 曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。  
( 3 ) 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。

本題材の教材であるバトゥカーダは、サンバのいくつかのリズムを重ねたり、変化させたりしながら音楽を構成していく打楽器アンサンブルである。ブラジルでのカーニバルの演技と演技の間に演奏され、一人一人のリズムは単調な繰り返しであるが、叩く楽器、振る楽器、擦る楽器の様々な音が混ざり合って、独自のグルーブ感が生み出される。子どもたちは、基本的な3つのリズムを重ねるアンサンブルに、ソロやブレイク、楽器を増やしたり減らしたりする技(かべぬり・かべぬき)を付け加えて、魅力ある音楽へと発展させていくことができる。また、ブラジルへ移り住んだアフリカの人々が、身の回りにあるもので音楽を楽しんでつらい労働を乗り越えていったというサンバの由来から、彼らの豊かな感性や知恵、さらに音楽のもつ力も感じ取る学習が展開できると考えた。

本時は、今まで習得してきた技をつなげて演奏する活動を通して、バトゥカーダの楽しさを味わうことをねらいとする。2種類のバトゥカーダ進行表にしたがって演奏する活動を通して、「技と技をうまくつなぐためにはどうしたらよいか。」という課題に迫っていく、「活動」からのアプローチとして授業を構成することにした。

#### ( 2 ) 子どもと教師

本校音楽科では、新しい音楽と出会い、「型の模倣」「技のぬすみ」を基本とした習得過程からその音楽の特質に気づき、自分なりにその音楽の魅力を見いだしていくという流れで学習している。教材を通して生まれる子どもたちの気づきを大切に、それを生かして表現の工夫ができることをねらいとしている。

本学級の児童は、題材「ミュージカルって楽しい」では歌に合わせて身体表現を工夫し、『サウンド・オブ・ミュージック』を通して音楽のすばらしさを捉えた。また、題材「ふるさとの民ようをたずねて」では、民謡歌手の歌い方をそっくりまねる活動から特徴をつかみ、歌詞の意味や由来をとらえて自分なりの歌い方を工夫していった。さらに、題材「プラスバンドと行進しよう」では、マーチングや指揮を通して、音楽的な特徴をとらえるとともに、鍵盤ハーモニカの三重奏を楽しんできた。

本題材ではこれまでに、サンバの基本的な3つのリズムと、ソロ・オパ!・かべぬりなどの技を習得し、互いの演奏を聴いたり見たりして合わせようとする力は育ってきた。本時は、特に「適切に判断する力」を働かせて、技と技をうまくつないで演奏できるように、先を予測して呼吸を合わせるアンサンブルの力を高めたい。そして、サンバの演奏ビデオからつなぎ方の工夫を見つけ、実際に演奏してみることによって、「技のぬすみ」「型の模倣」といった学び方も深めていきたいと考えている。

#### ( 3 ) 子どもと教材

本時は、子どもたちに「心ときめくバトゥカーダにチャレンジ!」と呼びかけ、これまで学習した技を異なる順番でつないだ2種類のバトゥカーダ進行表にしたがって演奏する活動を展開したい。その際、周りと合わせることで体が難しい児童には、教師がいっしょに演奏したり、同じ楽器の友だちをしっかりと見て演奏するように促したりして支援したい。また、指揮者や友だちと呼吸を合わせることで不十分な場合は、オパなど1つの技を取り上げた支援を要すると思われる。しかし、子どもたちにとって、これまで学習した1つ1つの技を合わせることはできても、技と技をうまくつなぎながら

演奏していくことは難しい。心ときめくバトゥカーダにするためには、技の変わり目をいかにかっこよく決めるかが鍵となる。おそらく、3つのリズムが一斉に始まる部分やソロに入る部分で戸惑いがあると予想される。したがって、活動を展開する中で次のような課題が生まれると想定した。

・技が変わるところをうまくつないで演奏するにはどうしたらよいか。

この課題を解決する支援として、まず次の演奏パターンを予測するために何を働かせたらよいかを考えさせたい。目と耳で指揮者の合図をとらえ、心で次への準備をしながら演奏を続けることである。続く支援としては、バトゥカーダの演奏ビデオから、技と技とを確実につなぎながら楽しく盛り上げる工夫を捉えさせ、それを実際に取り入れて演奏する活動を展開したい。そして、バトゥカーダの楽しさを実感することで、次時の「自分たちのバトゥカーダづくり」への意欲につなげたい。

### 3 題材の目標

- ・いろいろな打楽器に親しみ、サンバのリズム・アンサンブルを楽しむ。
- ・サンバの音楽的な特徴やブラジルの人々の生活とのつながりをとらえる。

### 4 学習計画（全9時間）

- 第1次 サンバとの出会い（1時間）
- 第2次 サンバのリズムに挑戦（3時間）      基本形・スタート・ストップ・ソロ
- 第3次 サンバのアンサンブルに挑戦（2時間） かべぬり・かべぬき・オパ！
- 第4次 サンバ・バトゥカーダを楽しもう（3時間） 本時1 / 3

### 5 本時の学習について

#### （1）本時の目標

これまでに学習してきたサンバの基本形とソロ・ブレイク・かべぬりなどの技をつなげて演奏することを通して、バトゥカーダの組み立てによる楽しさを味わう。

#### （2）本時の活動

2種類のバトゥカーダ進行表にしたがって演奏する。

#### （3）期待される児童の様相

- A 次の演奏パターンを予測して、うまく演奏を切り替えてつなごうとする。
- B 指揮や友だちの呼吸を見て、みんなに合わせてながら演奏しようとする。
- C 自分と同じリズムの友だちと合わせながら演奏しようとする。

#### （4）本時の展開（ 教師の意図 全体への支援 個への支援 ）

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
1. サンバ・バトゥカーダの BGM に合わせてステップしながら、ガンザとタンボリンを演奏する。	ゆっくりめの速さの演奏を用い、サンバのリズムにのって体をほぐすために行う。 リズムにのって演奏している児童を紹介していく。 ・ステップがうまく合っている。 ・首や肩も自然に動いている。
2. 前時までの活動を思い起こし、今日のためあてを確認する。	前時までにはいろいろな技を学習してきたが、本時はそれをつなげたバトゥカーダを演奏していくことを確認する。

**心ときめく「バトゥカーダ」にチャレンジ！**

3. バトゥカーダの進行表にしたがって演奏し、感想や問題点を出し合う。

バトゥカーダ進行表 1

スタート	かべぬり	基本形
オパ	基本形	ストップ

バトゥカーダ進行表 2

スタート	オパ	基本形
ストップ	ソロ	オパ
基本形	ストップ	

バトゥカーダを演奏した感想をもとに、「心ときめく」演奏にするためにはどうしたらよいか考えさせたい。進行表 1 は、比較的演奏しやすい順番で短くし、オパから基本形に移るところに抵抗感をもつことを意図して構成した。

かべぬりで自分の演奏がないときもステップをしている児童をほめる。

うまくいかなかった部分は、どんなことに注意して演奏したらよいかを確認して再度挑戦させ、少しでも改善されたら進行表 2 へ進む。

進行表 2 は、最初にオパから始まる効果と、ストップからソロに入る部分、オパから基本形に入る部分を意図的に取り入れて構成した。

進行表 1 のときに注意したことをここでも生かすように確認する。

ソロのときに思い切り演奏できたり、工夫して演奏した児童のよさを紹介する。

オパの 3 連符が正しく演奏できない場合は、3 音のことばを心で唱えながら演奏するよう助言する。

(例：たぬき / たぬき / ポン！)

ステップが止まったり、合わなくなったりしている児童には、いっしょにステップをふんだり、同じ楽器の友だちを見て合わせていくよう助言する。

- ・技が変わるところをうまくつないで演奏するにはどうしたらよいか。
- ・オパ！から基本形にうまくつなげるにはどうしたらよいか。
- ・ストップからソロにかっこよく入るにはどうしたらよいか。

4. 課題を解決して、よりよいバトゥカーダの演奏にしていく。

サンバの演奏ビデオを見せることによって、より確実に楽しくつなぐ工夫を捉えさせたい。

次の技に入るとき、指揮者やまわりの友だちと息を合わせることを助言する。

ソロに入るときの呼吸が合ってきたら、一歩前に出て演奏するように促す。

演奏が改善されてきたら、サンバの由来について話し、心ときめく演奏をめざしたい。

5. バトゥカーダを演奏してみて気づいたことやわかったことをまとめ、次時のめあてを決める。

次時の「自分たちのバトゥカーダづくり」を知らせることで、今日の学習したことが生かせるようなふり返りをさせたい。

参考文献：渡辺亮・飯田茂樹「レッツ・プレイ・サンバ みんなでリズム・アンサンブル」  
1998 音楽之友社